



うか。

**新井** 子どもと私は母子家庭なので、子育てはもちろん、一家の大黒柱として稼がないと生きていけない。妊娠して、お店が始まってからパートナーと別れたので、本当に飲食でやっていけるのか、それとも資格がある保育士に戻るか、と葛藤があったんですけど、ダメだったら実家を頼ればいい、やれるだけやってみようと思って、飲食店を始めました。でも、自分の中で子育てが本業だという思いはぶれないようにしたいと思っています。

また、子どもと話すことは大事にしています。以前は家で仕事をしていたのですが、観光協会は事務所にいることになるので、子どもが帰ったときに私ที่บ้านにいないことになるんです。ちょうどコロナもあり、子どもの負担を考えたときに、どう思うかをよく話して、彼の中でOKを出してくれたので働き始めました。子どもとよく話さないと、お互いの考えにずれが生まれて、大きな溝になっていきます。よく話して、スケジュール管理と気持ちのずれがないかを確認して過ごしています。今のところ会話ができる親子なので大丈夫ですが、中学生や高校生になったらどうなるかわからないので、心配はありますけどね。

◆「コミュニケーション力」が特徴  
**関根** 野口さんは、校長先生として2校目ですが、自分が女性だからこその特徴を感じる場面はありますか。

**野口** そうですね、やはり女性の気持ちが変わることですね。私はフォローする側の立場が多くて、どの立場の時も、特に妊娠時の体調不良など、本人もきつと、女性の管理職だと言いやすいだらうと思います。きめ細やかさや、コミュニケーション力は女性の特徴なんじゃないかなって思います。教職員の子どもが熱を出した時も、「まずは家庭を大事にして。こっちはどうにかするから」と伝えます。教職員は仕事が好きなので、ずっと思っていたんです。こうした声かけは、男性よりいえるかなと思います(笑)。

**関根** そうなんです。女性校長がもっと増えてほしい、と思いますか。  
**野口** きつと女性にしかわからない思いもあるので、仲間が増えたほうが嬉しいと思います。比企地域には中学校が18校ありますが、私が東松山市立北中学校で校長になり、実は比企地域で初めての中学校の女性校長となりました。初めての女性校長という話題性、でもそれは現場には関係ないだろう、とあっていて、そういう珍しさはなくなると思っています。

なるといって思っています。今、比企の中学校18校のうち4校の校長が女性で、なおかつときがわ町は2校しかないのに両方が女性なので、たぶん埼玉県内で、中学校の校長が女性100%なのは、ときがわ町だけではないでしょうか。

**一同** おお！  
**野口** まさしく女性活躍ですよ。五川中学校の校長は、なおかつ同い年で、そういう意味でも、いろんな話ができて助かっています。

◆健康観察は女性働きやすい工夫

**関根** 新井さんは観光協会の職場の中で、何か思うことはありますか。

**新井** 私は、生理前にはイライラや頭痛がすごくて、とてもパソコンなんて見ていられなくて、できれば薬も飲まずに寝ていたい。でも仕事をしなきゃいけないときは、ひたすら我慢しています。他の女性もきつと、同じように苦痛なとき、同じ女性同士でも言いつらいときがあるはず。じゃあそれを言葉じゃなくても伝えられるようにしようと思いました。今の職場では、タイムカードのところにホワイトボードがあって、それぞれの名前のところに、体調を表したマグネットを用意しています。これを、出勤したときに、自

分の体調と気持ちに向き合って、元気なら黄色のにちやんマーク、例えば頭が痛いときは緑のげんまりマークを貼って健康観察をするんです。それで朝礼の時にみんなが見て、「大丈夫？」「今日はちよつとセーブしようか」って配慮してくれます。私も同僚に「げんまりして眠いです」って言われると、「終わったら今日は早く寝よう」とって、笑って言えます。小学校でも「はい元気です」とやりますよね。同様に、健康状態を共有するだけで、男性職員も、ちよつと気を使って「ストープ使いますか」とか言ってくれます。男性も、「昨日食べすぎちゃって気持ち悪い」とかあるので、お互いに健康管理に気を使えるような取り組みを始めたら、会話のコミュニケーションの時間も増えて、いいなと思って今も継続しています。ぜひ、他でも参考にしてほしい取り組み



みです。

◆「いい町は女性が元気」

**関根** 町長は、いろんな事情を抱えた方々を雇用してきた立場で、女性が働きやすいようにするために、経営者や町長の立場で感じることはありますか。  
**町長** 私は家業が食品製造なので、女性の仕事が多いんです。今は社員の7割くらいが女性なので、女性が働きやすい職場であることを重視しています。今は妻が社長で娘が専務なので、女性の目線で、私とは違ったやり方で行っていています。

町長になって、町民の生き方を見てきたり、本を読んだり講演を聞いたりして、女性の大切さをより実感しています。最近、宮崎駿の「もののけ姫」を見たとき、主人公が「いい村は女が元気だ」といったようなセリフを言うんです。この一言に共感しました。私が行政視察でいろんな町に行くとき、いい町は女性が元気で、女性も一生懸命やっていると感じます。だからときがわ町は中学の校長が女性でいるっていいだけでなく、視察に来た人は「ちよつと違うな」と感じているんじゃないかと思っています。

**関根** そうなんです。町長になられたから女性の大切さを改めて感じて、

良い町は女性が元気だということを感じていると。

◆子育て後に、改めて活躍の時期が

**町長** 見落としがちなのが、子育てを終えた年齢からの活躍です。動物の社会の中では、メスは子育てを終えたら一生も終えます。だけど、人間はそこから30年くらい長生きができる。そこに、女性の新たな活躍の場があるんですね。女性の長い人生の中で見るときに、ここは女性が活躍できるな、ここは女性を守らなきゃいけないな、というところが、男性も女性も同じ価値観になることが、本当の意味で男女共同参画だと思います。

**関根** 守られないといけないのが、妊娠出産の時期であるとか、逆に改めて活躍できる時期が、子育てが終わってからはないかということですね。

**新井** 今、観光協会では、時間があって、おしゃべりが大好きで、世話焼きな番匠のお母さんたちが、(出回)にボランティアで入ってくれています。その人たちがもう、いきいきしてて、すごいんです。きつと今までは、手が空いているのに家にずっといて、何か地域社会に貢献したいんだけど、何をしたらいいのかしら、って考えていたんだと思います。今は、何かをお願いするよ、「これはや

るしかないわね」みたいな感じで、責任感を持ちすぎるくらいにやってくれるので、「そんなに頑張らなくて大丈夫ですよ！」ってスタッフが言うくらいです(笑)。

**町長** 生まれてからしばらくは、病気のしにくさや家事への貢献、下の子への面倒見の良さを見ても、女の子の方が活躍することが多いです。だから女性の人生のいろんな時期で、活躍できる時期があるんですけど、一時期身体的なハンデを背負う時期があります。そういうところを男性も理解して、社会全体もそういう風土になって行く必要があると思います。

◆出産と子育ての共有を

**関根** 今のお話で何かありますか。

